

| 受理番号       | 受理年月日   | 件 名 及 び 要 旨   | 提 出 者 | 送 付<br>委員会名 |
|------------|---------|---|-------|-------------|
| 29年<br>第2号 | 29.9.27 | <p>地震予測の改訂を早急に実施することを求める意見書採択に関する陳情</p> <p>現在、政府が行っている地震発生の確率予測は「確率論的地震発生予測」と呼ばれている。この予測の前提となっている地震の起こり方が「アスペリティモデル」というものである。ところが、2011年3月11日のM9地震発生により、日本列島付近の地震の起こり方が根本的に変化したため、それまで妥当と考えられていた「アスペリティモデル」が実情に合わなくなり、「断続沈み込みモデル」を想定すべきであるが、まだ、その変更が行われていない。</p> <p>確率論的地震発生予測は、海のプレートの移動速度や沈み込み速度が日本列島近辺で数千年以上の期間一定であるという前提が成立するときには正しいが、311大地震以降は日本列島周辺での海のプレートの沈み込み速度が格段に速くなってしまったため、その前提が成立しなくなっている。</p> <p>見直しは、「領域間で連動する地震について、領域間の相互作用についても考慮した評価を行う」のように、既に計画されているが、現実にはまだ見直しのための調査段階であり、太平洋プレートの沈み込み速度が311大地震前の2倍以上になった現状にあったモデルの策定が遅れている。</p> <p>以上の趣旨に基づき、下記のことを陳情する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>2011年3月のM9地震の前後で、日本付近のプレートの移動速度が大きく変化したため、それを考慮した地震予測を政府が早急に行うことを求める意見書を採択すること。</p> | 個人    | 防災環境<br>商工  |